

---

# ぬらりひよんの孫、その名は直江大和

朱雀

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ぬらりひよんの孫、その名は直江大和

### 【Nコード】

N5214BA

### 【作者名】

朱雀

### 【あらすじ】

ぬらりひよんの孫が、直江大和だったらの話です。

## 主人公紹介

### 主人公紹介

前半

直江大和

年齢 17歳

好きな物 ヤドカリ

武器 刀（天生牙&爆碎牙）

長所 誰にも優しく困っている人がいれば必ず助ける人物である

短所 だが告白恐怖症にかかっていて人間の告白を全て受け入れないようになってしまった。

真剣で私に恋しなさいの主人公だったが  
ある事件で、、、。

後半

奴良 やまと

年齢 17歳

好きな物 ヤドカリ

武器 刀（天生牙&爆碎牙）

長所 誰にも優しく困っている人が居れば敵だろうと仲間だろうと助ける優しい人物である

短所 だが（人間限定）だがやはり告白恐怖症は治っていないくて人間の告白を受け入れないようになっている。

ある事件で大和はぬらりひよんの孫になった

最初は妖怪達と一緒に住む事を嫌がっていたが

徐々に慣れて行き、ぬらりひよんの孫、そして3代目を受け継ぐようになる

## 天生牙&爆碎牙について

この刀は京妖怪である羽衣狐が満月の日に作り出した刀である。  
だがその刀は京都の何処かにあるだけだった。

そこで風間ファミリーはその刀を入手する為京都へと向かう。  
そこである現象が起きる。その現象とは一体？

失恋した。でも、前向きに生きて行こう

川神大戦後

直江大和は百代を川原に呼び出した

もう一度告白する為に

大和「姉さん、あの時は分からなかったんだ。でも、今なら言える。俺は姉さんの事が好きだ!」と。

すると

百代「、、、、舎弟に落とされるのも悪くは無いな。」と大和を抱き締めた

誰もが告白を受け入れたと思った

だが

百代「大和、、、、ごめんな。」だった

大和「え?」と言った

百代「お前の事は男として見てるし、この指輪も嬉しい。でも、付き合つかと言われれば私は舎弟のままでいいと思ってしまっんだ。」

大和「う、、」

百代「お前の気持ちは伝わった、有難う。でも、最高の友達で居ないか?じゃあ、な。」と言って百代は去って行った

大和「ば、か、な。」と言ってその場で倒れた

振られるとは思っていなかったのだ

大和「2回の告白でも駄目だったなんて。、、、やっぱり、姉さんを好きになってはいけなかったんだ。」と言った

この時

大和はこう思った

人間を好きになるんじゃないかと。

好きにならなければこんな辛い思いなどしなくて良かったのにと後悔してしまった

大和「まあ、前向きに歩いていこう。それが一番だ。」と島津寮に戻って行った

島津寮に戻った大和は

京が出迎えた

京「おかえり、大和。、、、それで、百先輩に告白してどうだった？」と言った

すると

笑顔でこう言った

大和「結果か？結果は駄目だった。」と言って自分の寝室へと戻って行った

そして

夕食になった

大和は何時までも失恋した事など気にしていたら笑われると前向きに生きて行こうと思いつながら

夕食に行った

夕食を食べている最中

人と喋ったり笑ったりしながら食べていた

全員は元気を失っていないかが心配していたが元気そうで良かったと思った

夕食後

大和は寝室に戻り勉強をした

大和「（俺には、総理大臣になる夢があるんだ。失恋如きに夢を失

う訳には行かない！」と思いながら勉強をした。

真夜中の12時になり

大和は睡眠を取った

大和「必ず、必ず、総理大臣になるんだ。」と思いながら眠りに着くのであった



## 最強の刀、その名は天生牙&爆碎牙 前半

百代に振られてから1日が経った

風間ファミリーはいつも通りに学校へと登校した

すると

百代ファン女性A「ああ、百先輩、抱いて〜。」

百代ファン女性B「いいえ、私です!」と目をハートマークにしな  
がら言った

百代「よしよし!皆可愛がつてやろう。」と自分のファンの女性を  
抱き締めながら登校していた

岳人「全く、百先輩は本当に女好きですね。、、、もしかして、男  
には興味なしとか?」と百代に聞いて見た

だが

百代「この前も言ったが、私はレズではないぞ。可愛いねーちゃん  
が好きなんだだけだ。それに周囲に魅力的な男子が居ないと、同性でも  
魅力のあるものに惹かれるのは当然だろう?」と言った

それを聞いた大和は

大和「(やつぱり、姉さんを好きになるんじゃないかなかった。はあ〜、  
失敗した。)」と思った。

そして

川神学園に着き授業が始まった。

大和「つまらない授業だな。まあ、我慢しながら受けてやるか。」  
と思った

お昼休みになり

大和は図書室に行き本を読みに行った

すると

興味がある本を見つけた

その本の名は

”最強の刀を作った妖怪、その名は羽衣狐”という題名だった

大和「最強の刀か。少し、興味があるかな。」と本を借りた

次の授業は歴史の授業

担任は小島先生である

大和は授業が終わったら羽衣狐の事を知っているかを話そうと思いながら教室に戻った

そして

授業が終わり下校時間になり皆は帰っていった

京「大和、一緒に帰ろう。」と言った

だが

大和「悪いが、小島先生に用事があるから先に帰っててくれ。」と  
言って職員室に向かった

そして

職員室に着き

小島先生を見つけて羽衣狐の事を知っているかを聞いてみた

すると

小島「羽衣狐の事か？羽衣狐は今から1000年前、京都に出没した最強の妖怪の九尾の事だ。姿は常に女の子の姿をしていて、主に鍛冶をしたり、人々を襲い掛かった妖怪だ。」と言った

大和「、、、、現在はもう居ないのですか？」と聞いた

小島「現在はだと？羽衣狐は1000年前の人々の戦いで陰陽師によって京都の何処かに封印されたといわれている。」と言った

大和「じゃ、じゃあ、この最強の刀って言うのは一体なんなのですか？」と聞いた

小島「最強の刀は、癒しの刀、天生牙、切られた者の特殊能力を封じる刀、爆砕牙の事か？」と言った

大和「癒しの刀ってなんですか？」と言った

小島「癒しの刀は、生きている人間を切ることはできないが死んだ人間を蘇らせる事や重症患者を全回復する事が可能な刀だ。だが、人を蘇らせる事によって天生牙を持つ者には不幸が訪れると言われている。まあ、どんな不幸が起きるかは不明だがな。」と言った

大和「、、、、そうですか、分かりました。」と言って帰っていった

大和はこう思った

”必ず、見つけよう。”と。

## 最強の刀、その名は天生牙&爆碎牙

### 中編 1

今日は金曜日

金曜集会がある日であつた

大和は秘密基地へと向かつた

大和「お待たせ〜。」と言つて入つた

すると

風間「遅いぞ。」といわれた

大和「ごめん、ごめん。お詫びにおでん買って来たからさ。皆で食べて。」と皆に渡した

そして

おでんを食べながら夏休みに何処に行きたいかを言つた

すると

一子「やっぱり、沖縄に行き海で泳ぐ！」

百代「私も海で賛成だな。海に行き、女の子とイチヤイチャしたい。」と言つた

他の皆も海で賛成したが

大和は違った

大和「悪いけど、俺は海には行かないよ。俺は、京都に行く予定がある。」と言った

風間「京都？何しに行くんだ？」と聞いてみた

大和は羽衣狐の事や最強の刀の事を全て話した

風間「死んだ人間を蘇らせたり、重症患者を全回復させる刀か。でもよ、何処にあるかは未だ不明なんだろ？」と言った

大和「まあね。でもね、天生牙&爆碎牙に選ばれた者は何処に在るか教えてくれるって小島先生が言ってた。」と言った時だった

不思議な現象が起きた

秘密基地の明かりであるランプがふっと消えた

風間「な？なんで火が消えたんだ？」

一子「風で消えたのかな？」と言ったときのことだった

大和は部屋の入り口を見た

何か居る気配があったため

すると

セーラー服の姿をした絶世の美女が居た

大和「女の子？どうやって此処に？」と言った

すると

その女性がこう言った

謎の女性「最強の刀が欲しければ満月の日の京都の妖怪ホテルに来い。」と言って消えていった

消えたと同時にランプの日が戻った

風間「よし！ランプが着いたぜ。」と言った

大和「（満月の日、妖怪ホテルか。）」と思った

何か考えていると

モロが言ってきた

モロ「大和、どうかしたの？」と

大和「え？今女の子が其処に立っていなかったか？部屋の入り口に。」と言った

しかし

幻覚でも見たんじゃないのかと言われた

だが

大和「確かに居ただけだな。（もしかして、俺しか見えていないのか？）」と言った

しかし

大和は最強の刀の情報が入ってきて

少し嬉しい表情をしたのであった。



**最強の刀、その名は天生牙&爆碎牙**      **中編1（後書き）**

川神大戦をした日が夏休み前になっています。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5214ba/>

---

ぬらりひよんの孫、その名は直江大和

2012年1月14日17時56分発行